



IOG

IOG Annual Report 2024

2024

東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

機構長ごあいさつ	1
IOG とは	2
IOG メンバー	8
リサーチビジョン	13
社会提言・その他	31
個別研究プロジェクト	37
個別研究プロジェクト【自治体等出向者のコメント】.....	63
産学連携プロジェクト	69
産学連携プロジェクト【個別共同研究】	77
IOG の業績	83
WINGS-GLAFS	103
イベント・インフォメーション	121

「幸福長寿と健康長寿」の両立を狙う

ー産学官民協働で地域コミュニティのリデザインを

我々、東京大学高齢社会総合研究機構（Institute of Gerontology：IOG）は、「個（個人のエイジング：加齢）」と「地域社会」の両面から諸問題の解決に取り組むために、学際的・総合的・実践的な知の体系【総合知】を創成しております。また、分野横断型の課題解決型実証研究（アクションリサーチ）によって新たな知識と技術を地域社会に還元／実装する研究機構です。少子高齢化を基盤とする超高齢社会に対して、新たな地域社会の在り方をエビデンスベースの政策提言・社会提言も行うことを目指しております。さらに、地域連携・産官学民協働・国際連携にも重きを置き、その卓越性のある総合知から変革を駆動できるジェロントロジー研究拠点として、「地域活力のある、及び多様性のある超高齢社会の実現」に向けて国内外に発信することを目指しております。

人生 100 年時代と言われる中で、心身機能を維持しながら、住み慣れた地域や自分の住まいでいつまでも自立した日常生活を過ごしたい。これは全ての国民の願いです。しかし、そこには物理的な身体のみで健康だけではなく、生きがいも含めた Well-being（ウェルビーイング）も充実している必要があります。すなわち、日々の生活を通して、現役時代であっても、そしてリタイア後のセカンドライフ期においても、生きがいと幸せを感じることが出来るような人生を送りたい。これも、どの世代の方々にも言えることなのでしょう。言い換えれば、健康長寿を実現するだけではなく、そこには Well-being（ウェルビーイング）を軸とした「幸福長寿」も不可欠になってくるのであろう。そのために、これからの時代に合わせた「4つの助（自助・互助・共助・公助）」を前向きにアレンジし、なかでも新たな自助・互助のスタイルのモデル化・具現化し、新時代に向けた地域づくりとしての再構築（リデザイン）が求められ、まさに我々 IOG はそこにチャレンジしていきたい。それらを実現するためには、なぜこのような状況に陥っているのかという現状評価や課題認識、さらには既存の社会システムとの照らし合わせ、新たな仮説設定も持ちながら、先を見据えた将来の未来ビジョンをクリアに描き、全国への汎用性の高いモデル構築が強く求められます。そして何よりも、一歩前に踏み出していける勇気・パワー・情熱（パッション）も必要だと認識しております。

今回の「2024 年度活動」の報告書では、IOG がどのように多様な社会課題に向けた課題解決型実証研究（アクションリサーチ）を繰り広げ、さらにインパクトの高い様々な提言を世の中に発信できたのか等、機構長を中心に全構成員で前向きに振り返りながら、本報告書を作成しました。また、純粋な研究者の活動だけではなく、自治体出向者を軸とする地域連携やジェロントロジー産学連携活動における底上げもかなり強化してきております。まさにジェロントロジー総合研究開発を質と量ともに加速させることが出来ております。改めてそれを再認識できる報告書になっております。

最後に、今後さらに超高齢社会の課題解決を多角的かつ実践的に取り組んで参ります。また、我々の研究および教育の活動に対して、より多くの方々と一緒に協働でき、新しい日本そして世界に誇れる日本を創っていければ幸いです。

東京大学 高齢社会総合研究機構 機構長
東京大学 未来ビジョン研究センター 教授

飯島 勝矢

